

ま ら め ま ☆



第37号

『癒しをもとめて～萬徳寺にて～』

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://hakukou-kai.or.jp/>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成27年6月30日

社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、太陽のしずく

ケアホームCOCO

豊岡光生園

相談支援センター天羽

三芳光陽園

鴨川ひかり学園

ひなたホームズ

湊ひかり学園

〒299-1607

〒299-1742

〒294-0825

〒299-2854

〒299-1607

千葉県富津市湊 1070-3

千葉県富津市豊岡 3535-1

千葉県南房総市上堀 280

千葉県鴨川市代 1297

千葉県富津市湊 934-18

TEL 0439-67-3711

0439-68-1711

0470-36-3211

04-7099-3311

0439-70-6551



『はたらく』

私たちの事業所『太陽（ひ）のしずく』の名称の由来ですが、フランスの絵本『太陽のしずく』からとったものです。絵本の内容は、主人公である太陽のしずくが自分には何ができるか、どこが自分の居場所なのか等々、自分探しの旅にでるという物語です。この物語のように、利用者の方々が、個々の可能性や自分なりの居場所が見つけれられるような事業所でありたいという思いから、『太陽（ひ）のしずく』という名称にしました。

太陽のしずくが開設した当時から目指しているもの。それは『はたらく』ということ。当時の管理者から『はたらく』とは決して『働く』だけではなく、『傍（はた）の人を楽しむ』ということでもあるのだと教えられてきました。重度、最重度の障がいを抱えながら生きている利用者の方々に生産性や効率性だけを求められれば厳しいのは確かです。しかし、自分たちの出来ること、例えば草刈だったり、花壇整備だったり、精一杯地域の役に立つことで、そこで関わった方々と知り合うことができます。最初は挨拶だけでもいいかもしれません。しかし次に会ったとき



には、一言二言会話を交わすかもしれません。そうこうしている内にお互いのことをなんとなくわかってきて、顔見知りになっていきます。すると『障がい』という言葉抜きに人と人の関係性が、そこにはできているように感じるのです。このような障がいがあってもなくても、子どもでもお年寄りでも、誰でも生活しやすい『やわらかい地域』へと少しずつ近づけていくこと。それこそが、私たちの目指している『はたらく』ということだと思っています。



太陽のしずくでは、近くの保育園や市役所、コンビニ、配食業者等々、利用者の方々が関わっているところはたくさんあります。そして、関わっている地元の方々も利用者一人ひとりのことをしっかりと覚えてくれます。ここでうれしいエピソードをひとつ。近くのコンビニへ空き缶の回収に行ったとき、利用者の一人がコンビニの中へ



入っていききました。職員は見守りの為、後からついていきました。しかし、コンビニの店員さんは「この方、無料のチラシを持っていくだけなので、ついていなくても大丈夫ですよ。」の一言。利用者の方々の日々の『おしごと』の成果が実感できた瞬間でした。日常生活の中のほんの小さな出来事かもしれませんが。しかし、この小さな出来事を積み重ねていくことこそが、太陽のしずくで『はたらく』ということの大きな意味があると思っています。自分たちが生活している地域で、もっと自分たちのことを知ってもらい、ありのままの自分たちを受け入れてもらえるよう、一つひとつの出会いを大切にしています。それが『やわらかな地域』に繋がる為の小さいけれども確実な一歩だと思っているからです。

これからも利用者の方々は太陽のしずくで『はたらく』ことを少しずつ積み重ねていきます。毎日、一歩ずつ。コツコツと。

《太陽のしずく施設長 幾野 圭裕》



事象新聞

第100号

「吾輩は亀である」

吾輩は亀である。名前はまだ無い。

どこで生れたかとうと見当がつかぬ。湊川の傍に居た事だけは記憶している。去年の秋の事だが、路の真ん中へのそのそ這い出してみた。吾輩はここで始めて人間というものを見た。縁は不思議なもので、もしここで主幹君に拾われていなかったら、吾輩は遂に路傍で車に轢かれていたかもしれないのである。

人間は実に不思議な生き物である。吾輩は人間から水槽を間借りして、目の前を通る人間たちの様子を観察するのを日課としている。金魚の水槽の下が定位置なのであるが、時に大地震が起こったのかと冷や汗をかいて驚く程に、水槽ごと広く明るい部屋へと移される事がある。例の如く、「カメ、カメ」という声が聞こえる。ふと水槽の外に目をやると、クリクリとした大きな眼が二つ、吾輩を見ているではないか。このたかゆき君は吾輩の事が、どうやらお気に入り入りのようで、いつまでもニコニコと吾輩を見ているので、吾輩の方が少々恥ずかしくなってしまうのである。



春になったので、吾輩は運動だけは取り敢えずやる事に決めた。畑をのそのそと歩くのであるが、大概はひでお君に付き合ってもらおう事になっている。

亀なので人間の言葉は喋れないが、

「おい、天気が良いなあ。実に爽快だ」と、彼に話しかけてみるが、

「……」

例の如く返事は無い。無口な男である。

吾輩が散歩を満喫していると、この男は知らぬ間にどこかへ行ってしまっている。

「はて、どこへ行ったものか」と、辺りを見回すと、黙々と吾輩の水槽を洗ってくれているのである。実に優しい男だ。



吾輩は御馳走も食わないから別段肥りもしないが、まずまず健康でその日その日を暮している。名前はまだつけてくれないが、欲をいっても際限がないから、生涯このひかり学園で無名の亀で終るつもりだ。

(森田)

「新しい一年が始まりました」

平成二十七年年度が始まり、湊ひかり学園ではいくつか変化がすでに見られています。

その内の一つに、車両外出が増えたことがあります。これまで一週間に一度程度の外出でしたが、今年からは毎日、数名の方が外出をしています。

その中に、買い物支援という活動があります。おやつに食べるお菓子を買に行く活動で、利用者の皆さんに食べたい物を選んで頂くことに重きを置いています。食べたい物がスパッと決められる方、たくさんあって決められない方、様々な様子が見られています。

また、午後の活動の時間にマクドナルドでジュースやおやつを買って食べるなんて事もしました。その時一緒に行ったまざるさんはフライドポテトに目がない様子で、一緒に買ったジュースの事も忘れて、一心不乱にポテトを口に運んでいました。

外出が増えた事で、少しずつ職員の知らない皆さんの一面が見え始めているように感じます。

(大木)



「手のひらに明日をのせて」



手を触れてもらっただけで「痛みが和らいだ」「なんだか元気になった」なんて経験はありませんか？
「握手」と「手のひらタッチ」。形は違いますが、みんなにパワーと勇気を分けてくれる、そんな二人がいます。

僕は握手でみんなにパワーをあげているんだ。手を握ったり、体に触れたりすることは「手当て」と言っていて、人に安心感を与えるコミュニケーションらしいんだ。

朝一番、送迎の職員に「ぎゅっ」と握手。散歩で出会った地域の方に「ぎゅっ」と握手。元氣のない仲間に「ぎゅっ」と握手。僕は挨拶だけじゃなく、楽しい時やうれしい気持ちを伝える時にも握手をするんだ。「ぎゅっ」とね。そして、一日の終わりに自分の手同士でも握手をするんだ。そうすると、僕の手は朝よりとっても温かくなっていることがわかるんだ。僕は握手でみんなにパワーをあげていたつもりだったんだけど、実はみんなからもパワーをもらっていたと思うだよ。

く小柴直樹く



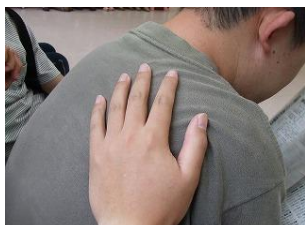
小柴さんが「握手」なら僕は「手のひらタッチ」さ。困っている人や元氣がない人を見かけると、つい「ボンボン」とタッチをして励ましたくなるんだ。あいにくの雨で、外出できずガツカリしている仲間がいる。「ボンボン、大丈夫、明日はきっと晴れるさ」

お気に入りのプロ野球チームが逆転負けをして、しょげている職員がいる。「ボンボン、大丈夫、今日はきっと勝てるさ」

発作等を抱えながらも元氣に学園に来てくれる大切な仲間がいる。「ボンボン、体調は大丈夫？ 今日もよろしくね」

実は、みんなにボンボンとタッチをしていると、手のひらがだんだんと温かくなって、僕も元氣になるんだ。時々、僕のスキンシップで驚いてしまう人もいるんだけど、僕なりの「励ましメッセージ」。だから、お互い通じあえたらうれしいな。

く石井昭太く



人と人とのつながりは一直線ではないこと。机を並べて、難しい本とにらめっこすることが「勉強」や「研修」ではないこと。毎日、たくさんの利用者が私たちに教えてくれます。



「街の風景になろう」



月曜日を中心に、社会貢献活動として地域へ出かけ、「ゴミ拾いや除草作業を行なっています」「地域の一員」として、少しでも街に貢献できたらと思っています。



「新年度は出会いの季節

ようこそ！ 滝口雄太さん」



笑顔がとてもステキです

楽しい思い出をたくさん

作っていきましょ



園だより

『サプライズは失敗に終わる』

今日は桑田さんの誕生日という事で、富津ジャスコへ出かけました。

日頃、動くことに消極的な桑田さんですが、車中「ジャスコ、ジャスコ」「買い物する〜」「アイス食べる〜」と張り切っている様子が伝わってきます。

まず店内に入ると本屋があり、「本、本」と言いながら、職員の手を振り払う勢いで本屋に突き進んで行きました。

キョロキョロ見渡すも数秒で本屋を出てしまいました。(うんっ?)



次々に目に入っ

てくる物に興味津々の様子で、店内を散策している中、念願のアイス店をみつけました。

動物好きの桑田さんは、ウサギの形をしたアイスケーキとチョコケーキを選び、あっという間にたいらげてしまいました。

(そりゃ目当てのもの!)

店内を一回りし、しばし休憩の間、私はサプライズのプレゼントを買いに行きました。以前桑田さんに、

「猫ちゃんと寝たいから連れてきて」と言われ、その時は希望に添えることができませんでした。

そこで「猫」

というキーワードで品物を考えることにしまし

た。

(さあ、どうだあ。これいけそー)



桑田さんにはこのプレゼントの事は内緒のまま園に戻り、プレゼントを渡しました。「桑田さんの喜ぶ顔がみられる」そう思いました。

ところが『何これ?』と言わんばかりの困惑した表情。

(えっ、えっ、あらあー) そう、私が選んだのは「トトロ」。私はずっと猫だと思っていたのです。

ごめんなさい。

また猫見つけに行きますから、

今回はトトロで許して下さい。



(猫おっ。違っつのくわた)

(笠戸)

『このチャンスのがすまい』

出先での日中活動が終わり、光生園に帰るため後部座席へ座る長谷川さん。

体をリズムよく上下にゆらし、気分も上々のようです。私が運転席に座ると背後に何かを感じました。振り向くと必死に助手席へ移動しようと後部座席より身を乗り出してくる長谷川さんがいたのです。

運転席と助手席の間は、わずか十七センチ。それに対して長谷川さんのお尻の幅は五十センチとなかなか思うようにいきません。

必死の表情で斜め移動を試み、何とか助手席に座ることができ、晴れ晴れとした表情と安堵の声。好奇心でクラクシヨンまで鳴らしてしまいました。



そう、日頃助手席にはなかなか座れない長谷川さん。今日は前の座席をのっとるチャンスが訪れたのでした。

この達成感に誇らしげな笑みを浮かべ、ご満悦でした。

(武ノ内)



ここ de COCO



『いづめんね』

四月よりMOMO担当になった私。
それまでほとんどMOMOの方たちと関わりが
なく、とても楽しみにしていました。

そんなある日、美佐子さんが私の前に手のひら
を見せて指を一本ずつ折り始め、次に両手で肩を
ポンポンとたたくしぐさを私に何度も見せてくれ
ます。

「んっ」

「何だろうっ？」

「あっ！」

「肩がこっているのね？」

彼女と歳が近い私は、勝

手に思い込み、

「わかるわー、私も四十肩でさー」

などと言いながら彼女の肩をもみだすと、

「ちがうー！」と言わんばかりに手を振り払い、

私の手を取りシートが置いてある場所へ。



シートを指さし、また同じ指折り肩ポンポン。
んっ、それでもわからない私……。

後でわかったのですが、

指折りが「いつ」

肩ポンポンは「帰省用のカバンを背負って」

の意味とのことで、ゴールデンウィーク前に、い

つ帰省するのか確認をしたかったと知りました。

ごめんね美佐子さん。

三ペ



『洗濯機がやってくるヤア！ ヤア！ ヤア』

八年間、一日に三〜四回、休みなく動いていた

洗濯機が悲鳴をあげて壊れてしまった。

洗濯大好きの手原さんにとって、これは一大事。

汚れた洗濯物が溜まって山になってしまっ、着る

のものが無くなってしまっ、大変だ、大変だ、これ

からどうなっちゃうのだろうと不安に思ってい

たところ、新しい洗濯機がやってきた。

新しい洗濯機を見つけた手原さん、早速、自分

の洗濯物を洗濯機に入れ、洗濯しようとしている

と、いつも赤い服ばかり好んできている職員がや

ってきて、

「洗剤、使いすぎて言ったでしょー」

と小言。そんなのおかまなしに洗濯を続けてい

ると赤ら顔で赤い服の職員が、レッドカードを出

した。

「手原さんは洗濯しちゃだめー」

「なんてこったい、それならば……」

と手原さんはレッドマンのいないときに洗濯を
するようになった。

しばらくすると、洗濯場に貼り紙がされた。

「手原さん、洗濯するときは、一緒にやろうぜえ
〜」

と書かれていた。

レッドマンからの誘いであっ
た。

それから洗濯は二人の共同
作業になった。

「洗剤は？」

「いちー」

「柔軟剤は？」

「いちー」

一回目の洗濯が終わると、

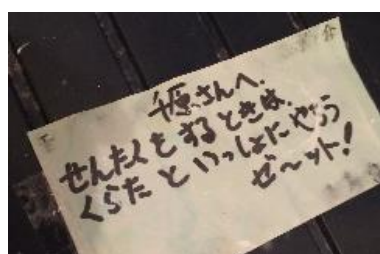
「おー、手原さん、洗濯終わったのを出してくれ
たのー、ありがとう」

「はあい！」

「じゃ、もう一回やる？」

「はあい！」

「はあい！」



倉田



光陽

『初心（所信）表明』

平成二十七年度は、三芳光陽園にとって変換期を迎えました。

介護保険制度が始まって以来の大幅改正に加え、薄光会も法人本部の体制作りの一環から、三芳光陽園の大黒柱だった神谷施設長が、法人本部事務局長となり三芳光陽園を離れることになりました。

時期尚早とは思いましたが、私、山田洋治にお声がかかり、四月より初代加藤施設長から数えて三代目施設長に就任致しました。



三芳光陽園に就労してから二十年が経ち、介護保険が始まった年から在宅のケアマネジャーの業務に携わり、度々改正する介護保険制度に翻弄されてきました。高齢者の生活を側面からサポートをする業務は地域や行政や多様な業種の方々との関係作りにも繋がって、自分自身も成長させてもらったと感じています。

三芳光陽園の施設長という大任を受けたからには、歴代の施設長が築いてきた地域の信頼を更に深高め、積み重ねてきた地域貢献に引き続き力を入れていきます。

今後、高齢化と重度化が進む中、適切な支援ができるように、自己研鑽は勿論のこと、職員のスキルアップに取り組み、多様なニーズをお持ちの利用者に『元気で楽しく・安心して』過ごしていただき、光陽園に来て良かったと思っていただける施設にしていきたいと、気持ちを新たにしています。

三芳光陽園 山田洋治

〈研修〉



三芳光陽園では、研修委員会で話し合い実務に活かせる研修内容を年五回予定しています。

過去に施設内で感染症が蔓延した教訓から、感染症研修（インフルエンザ・ノロウイルス）を基礎知識や予防対策習得の為、毎年必須研修としています。また、今まで実践してきた施設での看取りを振り返る機会として、外部講師を招き、看取り・緩和ケアを全体で深める研修を予定しています。

研修委員

〈おんぶ紐と人力車〉

東日本大震災以降、南房総市災害支援連絡会が発足し、福祉避難所協定を結ぶなど、地域でも防災意識が高まっています。南房総市から防災グッズ『おんぶらっく』と『けん引式車椅子補助装置JINRIKI』が、支給されました。

『おんぶらっく』は名称の通り、楽におんぶができる大人用のおんぶ紐です。

職員同士で実際におんぶができるのか実践してみました。

装着し立ち上がるまで大変ですが、移動はスムーズで、両手も使えるので避難する際は活用できそう……たぶん。

ちなみに、あの巨漢の前施設長も何とかおんぶ事ができましたよ。



『JINRIKI』は世界初、車椅子に装着すると人力車として容易に悪路や雪道でも移動ができる画期的な避難用装置です。

実際に取り付けて試していると、入所者の通称『現場監督Sさん』が、車椅子に乗るのではなく、車椅子を引いて「うん、うん」と、妙に納得されておりました。

災害時の緊急避難の際は、協力をお願いできるかな？



太陽のしずく

『楽しい、ひととき』



太陽のしずくでは、「サイクルリPEE」というペットボトルとキャップのリサイクルを中心にお仕事をしているジョブチームがあります。

今年度より、地元のスーパーにあるペットボトル回収機に空のペットボトルを入れて、そのスーパーで使えるポイントを貯めようという取り組みを始めました。

ペットボトル回収機はいつもリサイクル目的のお客さんが並んでいます。その列に、最初は不安そうに並んだ利用者さんですが、今では、楽しみになっているようです。



お店に着くと一番先に回収機で待つ押さんや、回収機から出る「ガヤガヤ、ガヤガヤ」という音を楽しんでいる茂木さん、ペットボトルを投入すると、一瞬で無くなるのが不思議でたまらない光信さんや裕子さん、そんな様子を見て楽しんでいる三夫さん、みんなに平等にペットボトルを手渡してくれる千原さん。



わいわいがやがやと回収機の周りはいつも賑やかで、お仕事の楽しみが増えたように感じます。私も「ガヤガヤ、ガヤガヤ」と、思わず口ずさんでいます。ポイントを貯めて、みんなが何を買うのか楽しみですね！

鈴木ゆ



『研修』

太陽のしずくでは、職員が持ち回りで研修の講師をやります。何故かという、研修を『受ける』だけではなく、『伝える側』の難しさも職員に感じてほしいという思いからだそうです。

二十七年度、最初の研修テーマは『会議・ミーティングについて』でした。最初は何を話してよいかわかりませんでしたが、まずはとっても真面目に文章で説明をしました。ただ話しているだけでは、なかなか伝えられない事があり、改めて『伝える』ということとは難しいと思いました。

それが終わり、体や頭を使って動くことで会議等の『シーン……』とした空気を壊して意見を



出しやすくするというアイスブレイクをいくつか試しました。ちょっと難しい手遊び、指遊びの一種でしたが、なかなか奥が深く、とても楽しく進める

ことが出来ました。

最後に他己紹介をやってみました。新しい職員もいたので、色々なことがわかったり、他の人から見た自分はこんな風に見えるのかと気付く事もたくさんありました。『自分』というものを違った角度から知るのに、とても良い時間になったのではないだろうか。

いろいろ試した結果、いい感じに雰囲気や和みしました。緊張した空気よりも皆が意見を出し合える空気の方がいいですね。

石井



【編集後記】

『新しい年度になって』『うちの事業所、こんな研修やってます』といった内容で、☆新☆に拘ってみました。

暑い日も増えてきてもうすぐ夏がきます。春にまかれた種がこれからどのような芽が出てどのような花が咲くのか楽しみです。

広報委員

石・山・寺

